

NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

車椅子で旅がしたい。行けるところを探して行くのではなく、「行きたいところに行きたい」。チエアウォーカーの素朴で切なる願いをかなえようと、「奮闘」を続けて23年。今では「伊勢おもてなしヘルパー」「入浴介助ヘルパー」の紹介、「福祉機器レンタル」などサービスの幅を広げ、付き添う人もリラックスして楽しめる旅を提供。「年を重ねても自由に旅ができる」と、高齢の方たちの希望の源にもなっています。

鳥羽市駅前の「NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」を訪ねました。スタッフは野口あゆみさん、中村千枝さん、上村静香さん、中山めぐみさんの4人。今回は事務局長で23年前にこの活動を立ち上げた野口さんにお話を伺いました。

——バリアフリー観光の情報を提供するセンターの先駆けとして頑張ってこられましたが、状況は変化していますか。

野口：始めたころは、まずは現状を整えてから旅に来てもらうべきだというご意見をたくさんいただきました。でも、根拠はなかったのですが、そうじゃないという確信があり、まずは来ていただき

て、そこで旅に来た人も、受け入れる側も一緒に、一つずつ問題を解決していく方がいいと思っていました。結果として、続けてきたトライアンドエラーという形が一番早くて確かな方法だったと感じています。今では、観光業者の方も積極的に対応してくださるようになります。

——バリアフリーツアーセンターという新しい試みが続いたのには、伊勢志摩という土地柄も関係していますか。

野口：伊勢は「おも

てなしのまち」とい



バリアフリーの
アクティビティーも充実

お問い合わせ

「NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」
TEL 0599-21-0550



志摩ロードパーティーハーフマラソンの「バリアフリーパーティラン」を運営※



「伊勢おもてなしヘルパー」は内宮で活躍※



障害者の視点からの検証も※



野口：伊勢神宮の石段などで介助する「伊勢おもてなしヘルパー」や宿泊先での「入浴介助ヘルパー」の紹介もありますし、車椅子などのレンタルも行っています。ちょっとした介助があるだけで、旅がぐっと楽になります。ご本人だけではなく、付き添つてこられるご家族やお友達にも楽しんでいただくためにも、他者の助けが必要です。これは、ずっと続けていくことを考えて有償としています。車椅子の方だけではなく、視覚障害や聴覚障害のある方への対応もでききました。

——旅に求めるものも変化しているのでしょうか。

野口：歴史や文化を知り、体験したいという方が増えています。いろいろな団体とコラボして、よりストーリー性のある旅をしていただけるようになってきました。また、「家族を癒す旅にしたい」というお声も増えています。「最後に伊勢神宮にきたかったがあきらめていた」というシニアの方が、車椅子などを使って「こんなに楽に来られるのなら、毎年でも来たい」と明るくいわれるとう

れしくなります。皆さんそれぞれに状況が違いますから、なるべくたくさんの情報を提供できるように努めています。

——今では多くの人が、障害がある人は旅行ができないとは思わなくなりました。「バリアフリー、ユニバーサルデザインの提唱をしていますが、自然や伝統を壊してまでそれを求めているのではありません」と話す野口さん。守るべきものは守りつつ、今後も、しなやかに、積極的に、現状を拓いていかれることでしょう。

われるように、観光地という土壤があつたのは大きかったです。

車椅子の方からも、「普通に、自然に接してくださるのでうれしい」というお声をよく聞きます。高齢社会になり、障害のある方もたくさん旅に出られて、マーケットとしても大きいものになっていることもあるでしょうね。

——いろいろ新しいサービスも行っていらっしゃることですが。



中村 千枝さん



上村 静香さん



野口 あゆみさん